



HELLO, NEW CITY.

新しいまちの暮らし

スーパースマートシティうつのみや始動



東武馬車道通りにおける道路空間を活用した社会実験（BASHAMICHI YARD）
に関する調査結果について

令和5年2月21日

滞在できる道路空間により賑わいが創出！**～人中心のウォークラブルなまちづくりに向けて～**

中心市街地のウォークラブルなまちづくりに向け、LRTのJR宇都宮駅西側への延伸を見据え、LRTと東武鉄道の交通結節点となり得る東武馬車道通りにおいて、道路空間を活用した居心地の良い空間づくりを行い、その効果や実現性、周辺交通への影響などを検証するため実施した社会実験「BASHAMICHI YARD」に関する調査結果について報告します。

1 社会実験の概要

実施主体：東武馬車道通り社会実験実行委員会

（構成委員：地元商店街・自治会、まちづくり等に関する有識者、市など）

実施場所：東武馬車道通り（裏面の通り）

実施期間：令和4年10月22日（土）～30日（日）の9日間

2 実施内容

- ・ 終日北進一方通行の交通規制を実施
- ・ 歩車道を一体的に活用した滞在エリアを通りの両側に数箇所創出
- ・ 滞在エリアには人工芝を敷設し、ベンチ、パラソル等を設置
- ・ 3台分の荷捌き用駐車スペースを配置
- ・ 沿道店舗の参画によるテイクアウトメニューの企画 など

3 主な調査結果

- ・ 歩行者通行量については、大きな変化は見られなかったものの、滞在時間については、5分を超える利用が6割以上を占め、前回の令和4年3月実施時の約4割から増加するとともに、利用者からは好意的な意見が多く、何気なく滞在できる休憩スペースの高いニーズが確認できた。
- ・ 自動車交通量は、通常時に比べ、約3割から5割程度まで減少し、人中心の歩きやすい空間になった。また、接続する市道32号線の交通量も減少するなど、交通規制により周辺の交通にも変化が見られた。
- ・ 駐停車車両の約72%が荷捌きスペースに集約され、通り全体として路上駐停車車両が減少した。
- ・ 北進一方通行による歩車道を活用した滞在エリアの有効性や実現性を確認できた。

4 課題

- ・ 恒常的な滞在空間の創出に向け、周辺の交通の変化も考慮しながら、将来のふさわしい道路空間形成のあり方を検討する必要がある。

裏面あり

<問い合わせ先> 都市整備部NCC推進課 課長 上田 英夫(028-632-2898)



HELLO, NEW CITY.

新しいまちの暮らし

スーパースマートシティうつのみや始動

住めば
愉快だ
宇都宮

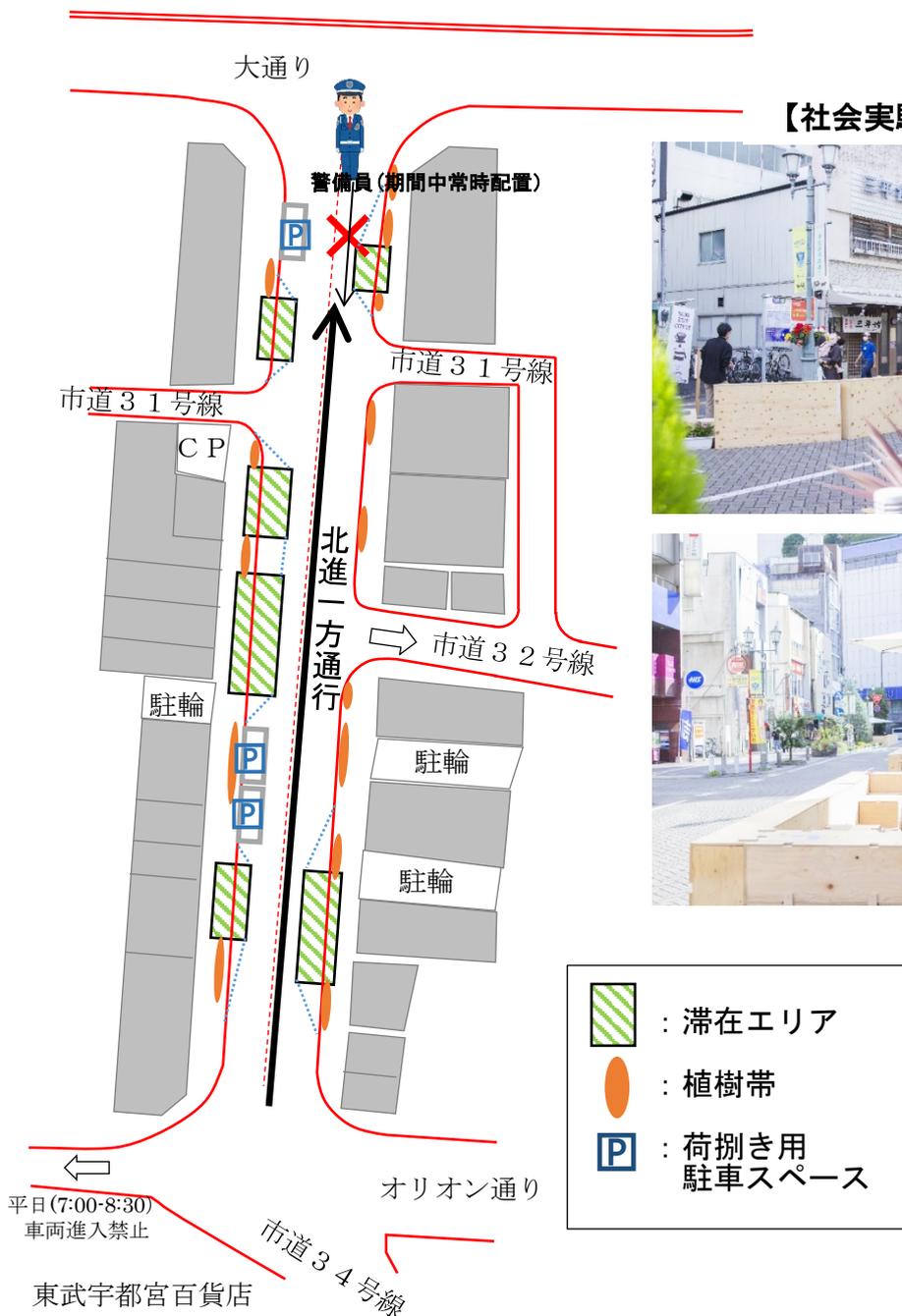
UTSUNOMIYA

5 今後の進め方

- ・ 今後は、ウォークアブルな人中心の空間形成に向けて、東武馬車道通りを中心に、周辺道路も含め面的に捉えながら、実行委員会や周辺の店舗などの関係者、交通管理者等とともに、鉄道とLRTの交通結節軸、中心商店街を構成する賑わい軸として、交通の規制や誘導、歩道などの道路断面の見直しによる道路空間の再編なども見据えたふさわしい道路空間形成について、波及効果や周辺の交通影響も考慮しながら、検討を進めていく。
- ・ 併せて、まちなかの休憩スペースに対するニーズも確認できたことから、現在の歩道空間における休憩機能の充実に向けた取組を進めていく。

※ 詳細は別紙参照

【BASHAMICHI YARD 実施エリア】



【社会実験中の様子】

